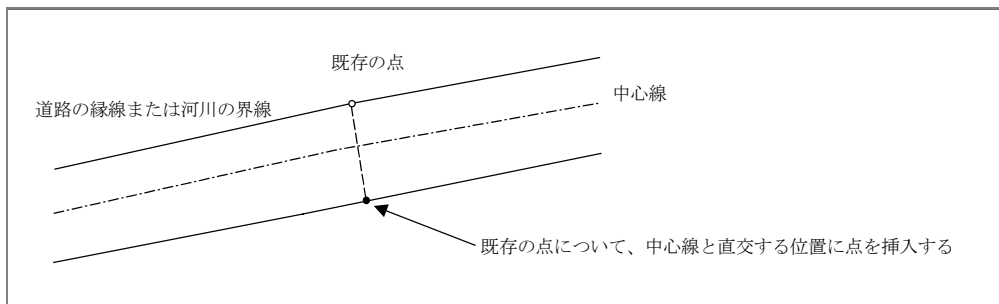


新メニュー[砂防基盤地図]-[対の点を挿入]を追加しました。  
以下は、操作説明書からの抜粋です。

## 対の点を挿入

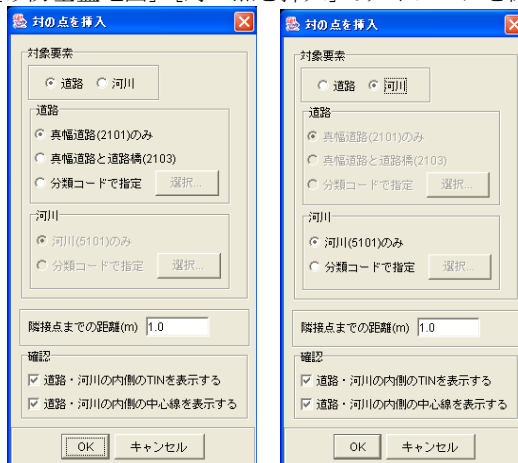
真幅道路と河川の縁線の点列に対となる点を挿入します。



道路および河川専用の機能です。道路の場合は真幅道路(2101)や道路橋(2203)の道路縁線から、河川の場合は河川(5101)の界線からネットワークおよび中心線を作成し、縁線の全ての頂点について、対となる点の有無を調べ、なければ相手の縁線に点を挿入します。

対象となる要素のネットワークに切れ目や分岐がないことが前提です。事前に[チェック]-[ネットワークチェック], [道路チェック]などでチェックと修正を行ってください。

メニュー[砂防基盤地図]-[対の点を挿入]でダイアログを開きます。



【対象要素】処理をする要素を指定します。

【隣接点までの距離(m)】挿入しようとしている位置から指定された距離以内に既存の点があれば、点を挿入しません。

【確認】処理結果を確認するためのオプションです。

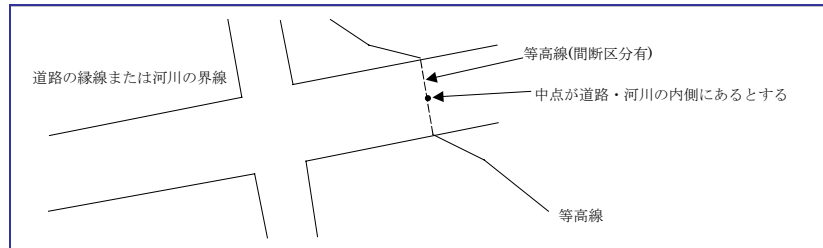
処理終了後、挿入した点について[確認リスト]に表示します。

(5) 挿入した点 (-200993.64, -56506.92, 444.29)  
 (6) 挿入した点 (-200992.31, -56510.31, 444.33)  
 (7) 挿入した点 (-200988.65, -56520.23, 444.46)  
 (8) 挿入した点 (-200983.31, -56543.09, 444.73)  
 (9) 挿入した点 (-200980.89, -56553.72, 444.84)  
 (10) 挿入した点 (-200979.09, -56564.31, 444.97)  
 (11) 挿入した点 (-200977.45, -56571.86, 445.05)

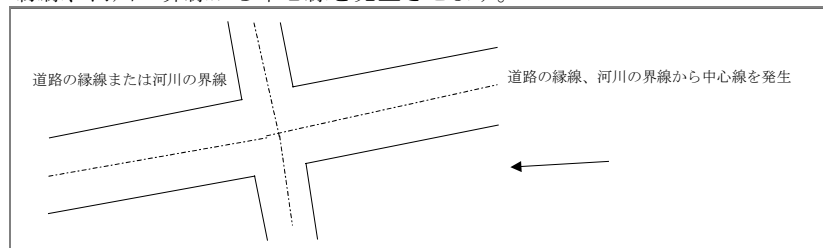
ガイド レポート チェックリスト 確認リスト

次のような処理の流れになっています。

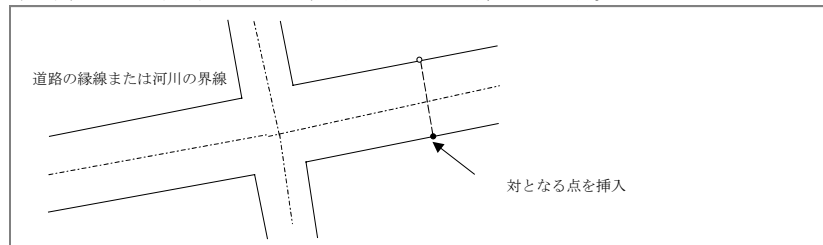
- (1) 等高線などで間断区分が設定されている要素から、道路・河川の内側の点を特定します。該当する要素が見つからない場合、参照点の XY 座標が内側にあるとして処理を続けます。



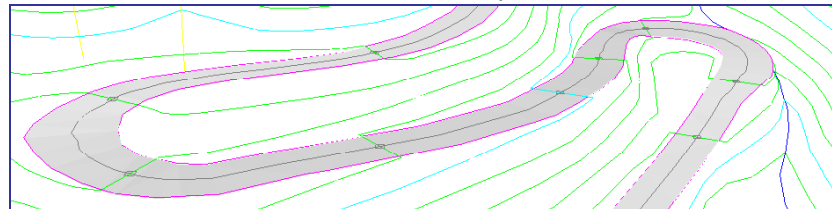
- (2) 道路の縁線、河川の界線から中心線を発生させます。



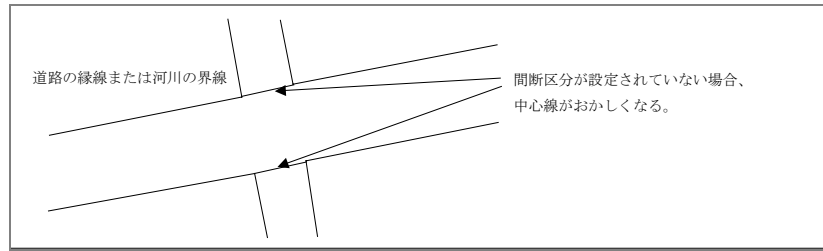
- (3) 道路の縁線、河川の界線について、対となる点を挿入します。



- (4) 確認のため道路縁線・河川界線の内側の TIN を表示させることができます。また、中心線と(2)で内側の判定に使った点を四角形でベクトルマッピングの TIN 上の線として表示します。この場合、既存のベクトルマッピング表示用のデータを削除します。複数の DM ファイルが読み込まれている場合、最初の DM ファイルのベクトルマッピング用データとして表示します。



- (5) 道路縁線や河川界線がペアとなってネットワークを構成していることが条件です。軽歩道(2102)や徒歩道(2103)、細流(5102)など、一本の線になっている要素は対象外です。もし一本の線になっていたり、3本以上の線がならんでいたりすると、中心線がおかしくなり、標高値の値がおかしくなります。おかしい箇所は(7)の TIN 表示でもおかしくなります。



点が挿入された結果、中心線の形状が変わることがあります。そのため、再度処理を実行すると、新たに挿入される点が発生することがあります。処理結果を確認しながら、数回この機能を実行されることをお勧めします。